

山行報告書

報告書作成

中根

山名 [山域]	南アルプス	目的と方法	南アルプス南北縦走
登山期間	8月8日～8月16日	山行形態	8泊9日
参加人数	男2名		

行動記録

8/8	5:00	岡崎	6:10	豊川	8:40	平岡	10:00	易老渡	11:45	面平	15:30	易老岳	18:05	光小屋
8/9	5:15	光小屋		頂上	5:40	光小屋	7:40	易老岳	10:25	茶白岳	13:05	上河内岳	15:30	聖小屋
8/10	5:30	聖小屋	8:40	聖岳	12:00	兎岳	12:40	小兎岳					15:45	百間洞
8/11	5:25	百間洞	6:30	百間平	8:35	赤石岳	9:25	小赤石	10:20	大聖平	10:00	荒川小屋	13:20	荒川コル
↑	13:30	前岳											16:15	高山裏
8/12	5:30	高山裏	6:40	板屋山	9:20	小河内岳	11:30	烏帽子岳					12:15	三伏峠
8/13	5:20	三伏峠	6:25	本谷山	10:00	塩見岳	12:30	小屋跡	12:45	北荒川岳			15:50	熊ノ平
8/14	5:00	熊ノ平	7:05	三峰岳	9:50	野呂川越		横川岳	12:40	伊那荒倉岳	16:40	仙丈岳	17:00	仙丈小屋
8/15	5:30	仙丈小屋	6:10	馬ノ背	6:50	大滝の頭	8:05	北沢峠	11:30	駒津峰	1:35	甲斐駒	16:00	七丈小屋
8/16	5:15	七丈小屋	6:20	黒戸山	9:30	尾白の森								

概念図



日誌 8日朝飯田線に乗り平岡まで行き予約してあるタクシーで易老渡まで行く。ここから易老岳まで約1500mの急登となるが少し体調が悪くピッチが上がらない。コースタイム7時間40分を8時間かけて光小屋に到着。非常に疲れたので光は翌日登ることにする。翌日食事前に光に登り聖に向かうが昨日に引き続き天気は最高で暑い。この日のコースタイムは9時間15分であるが縦走路から上河内岳の往復時間も加わり到着は15時30分と遅れる。ここまで光、聖小屋とも感じの良い対応を受けた。10日朝霧の中、聖に向けて登るが最後の急登に入ると小雨になり視界は望めない。しかし徐々に天気が回復し遠望もきくようになる。兎をすぎ大沢岳手前に百間洞に行く近道が出来たのでこれを使うがそれでも約10時間の歩行で疲れる。また夜テントの近くで鹿の警戒音と思われる鳴き声が出て気分が悪い。11日天気が良く気持ちよい縦走路を赤石に向かう。頂上では大展望、遠くに塩見岳、池口岳まで確認できた。ここから荒川小屋まで下り休憩を取る。荒川の南斜面は有名なお花畑であるがゆっくり写真を撮る暇もなく頂上に向かう。ここから進度を西に振り下りに入る。比較的平坦になりまた北に進むと高山裏小屋の到着するがここまで来る登山者は少なく若い数パーティーのみで、宿泊は我々のみ。この主人はネットでの前評判通り、決して逆らってはいけぬ。南ア特有の花タカネピランジを二度聞き叱られる。夜雷雨となりテント泊にしないのでよかった。12日曇り、今日はこの山行で一番楽な日であるが小雨が降りだす。雨具を着けて三伏峠を目指す。近づくとうち山岳部の隊列が大声で歌いながら歩いている。気持ちの良いものだ。三伏峠には昼頃に到着、3-4パーティーの大学生がテントを構築しており天気は悪いが私もテントを設営した。ここで50%を越えなんとか全行程行けそうな気持ちになる。13日の天気予報は悪く岩山の塩見を越す大事な1日、雨具を着けて歩きだすが、降りださないで本谷山で脱ぎ身軽になり快調に頂上を目指す。途中時々頂上を見ることが出来たが頂上に着くと遠望は望めない。ここで昼食を取り熊ノ平に向かうが途中の避難小屋跡付近はマルバタケフキの群落が素晴らしく車山のニッコウキスゲのようだ。この日も約10時間の歩行で小屋に到着するが直前から雨が降りだす。小屋は市営と看板にあるが運営は東海フォレストに移管されており主人の態度に問題がある。14日晴れ、いよいよ仙丈に向ける仙丈尾根に登る日である。まず間ノ岳を見ながら三峰岳(ミブ)に登るが頂上付近は岩稜で注意深く登る。ここから野呂川越まで急斜面を約700m下り昼食を取り登り始めるが樹林帯の中で涼しいが花は無い。途中仙丈から下山してくる数パーティーに行き会うが登っているのは我々と若い単独登山者だけらしい。伊那荒倉岳を過ぎて1時間くらい行ったあたりで夕立が降り出し雨具を着ける。徐々に急登となり濡れた岩場を慎重に高度を稼ぐと大仙丈に着くがここから仙丈まで結構時間を消費した。頂上では記念撮影を取り早々に小屋に向かうがこの日は約12時間も費やし疲労困憊である。夜家族連れから救援依頼が入ったということで小屋の関係者が出かけ22時頃無事帰還するがもし携帯電話が通じなければ危険な状態であった。15日朝霧、雨具を着けて下山するが、この日も天気が回復するので途中で脱ぐ。北沢峠で休憩し食欲がないので特別におにぎりを購入する。だんだん天気が良くなり駒津峰では甲斐駒、北岳、仙丈など最高の展望に支えられコースタイムで甲斐駒の頂上に立てた。しかし頂上に着くころから早くも霧が出て展望は北の方向のみとなる。早々に七丈第一小屋に向かうが岩場の連続で思ったより難路である。小屋より歩いて10分ほど上部にテント場があるが受付や水場は小屋でなくては出来ないためここを下山路として使う場合注意が必要である。(上部テント場でザックをデポし受付してから10分ほど登り返す)16日は朝から晴れて気持ちよく縦走最終日を迎えることが出来た。

感想 数年前から暖めていた南アルプス南北縦走ですが幸い良いパートナーに恵まれ完走できました。私は初日から体調不十分で一日の行動時間が長くなりましたが、目標を達成できて大変嬉しく思っています。予定通り歩くことを優先し高山植物を十分鑑賞することが出来ませんでした。熊ノ平付近のマルバタケフキの大群落や南アルプス特有で兎周辺のタカネピランジなど楽しめました。川柳(I氏作)馬鹿尾根(仙丈尾根のこと)に登る二人に花なし